

(2001.8)  
2000.8

女性委員会だより

Vol.71

改訂版  
Vol.1

らくだ



社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8076 岐阜市司町1番地岐阜総合庁舎3階

〈電話〉(058) 266-5786

〈FAX〉(058) 266-6867

## ■ ごあいさつ

◆委員長 河内美代子

皆さん、こんにちは。暑い日々が続きますがいかがお過ごしでしょうか？ 4月にお知らせしました、3ヶ月に一度(程度)を目指すこのお便りが何とか完成し、皆さんのお手元へ郵送できる運びとなりました。

今年度から全女性会員をメンバーとして委員会活動をはじめ、5月にはメーリングリスト(ML)も立ち上がりました。今回お届けするこのお便りは通算では71号、ニューヴァージョンとしては記念すべき創刊号です。名前は「らくだ」(楽だ!)テクテクとマイペースで行こうという気持ちを込めてのネーミングです。女性委員会は年齢も立場も様々ですが、女性同士というキーワードのもと、楽しく、情報交換、勉強会など進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

## 今回の記事

■今後の予定

■ブロック会議の報告

■森林文化アカデミーのこと

■メーリングリストへの参加呼びかけ

■全国女性建築士連絡協議会の報告

・全国委員長会議

・全体会・分科会・見学会

■女性建築士のつどい(仮称)のこと

## ■今後の予定

9月7日 奈良薬師寺大講堂見学会(詳細は未定)

※詳細が決まり次第MLで案内予定(MLに参加していない参加希望者には別途案内を出しますので事務局女性委員会担当まで連絡ください。)

10/5 建築士会全国大会(仙台市)

11/9 (社)岐阜県建築士会設立50周年記念事業  
(岐阜グランドホテル)

11月下旬 女性建築士のつどい(詳細は未定)

3/9.10 H13年度 建築士会東海北陸ブロック会議女性建築士協議会后期会議(福井県武生市)

9月、11月、1月、3月(2ヶ月に1回程度)に必要な応じ委員会運営会議開催予定

## ■メーリングリストのこと

前回のお便りにも紹介しましたが、メーリングリストを活用することにより随時双方向の情報交換が出来ます。1人でも多くの方にご参加いただければと思います。メーリングリストの詳しいことは次のページを参照ください。今回執筆担当してくれた濱本さんがわかる範囲内であればアドバイスOKとのこと。濱本さんの連絡先 TEL0584-64-6208)

[kaohama@basil.freemail.ne.jp](mailto:kaohama@basil.freemail.ne.jp)

## ■女性建築士のつどい(仮称)のこと

11月下旬頃に全女性の集いを企画します。親睦をメインに研修会も入れた内容にしたいと考えていますが、日にち・時間帯・内容などについて皆さんにアンケートして決めていきたいと思っておりますので別紙のアンケートにご協力よろしくお願いします。)



## ■建築士会東海北陸ブロック会議の報告

◆平成13年度 女性建築士協議会 前期会議の報告

日時：H13.6.23 (13:00～17:00)

場所：名古屋国際会議場

(岐阜県からはオブザーバー参加者を含め6名出席。

全体では39名の参加)

※会議に先立ちブロック事業委員会が開かれた。

内容：ブロック事業発表が一巡するため、今後の進め方について協議、次回の会議までに各県の回答準備(初めての方のためへ参考までに…岐阜県はH11の後期会議で環境共生住宅「人にやさしい住まい」としてホルムアルデヒドの測定結果を発表)

## 連合会女性委員会の報告

(運営委員長＝富山県・小見さんの報告)

全国大会はフォーラムⅢを運営(仙台市)10/5

全国女性建築士連絡協議会開催(熊本市)7/13.14

来年の全国大会(三重県)について

このあと、青年委員会の活動報告発表会に参加 静岡(2物件)、三重、石川、富山の各青年委員会から発表があり、全国大会への推薦物件を全員で投票した。引続き行われた懇親会の席で講評と発表があった。

定例会議内容：各県の活動状況報告(主に計画)

愛知県 10/6 アジア女性建築士オープンステージ  
1/26 わたしらしい住まいづくりパネル展

福井県 勉強会(テーマ児童館)を4回予定

三重県 後期のブロック発表(テーマ：人と環境にやさしい住まいづくり)に向け準備

石川県 バリアフリー・環境研究会を継続開催(資料：テルチンびと)

長寿生きがい相談業務(委託事業)を月1回開催

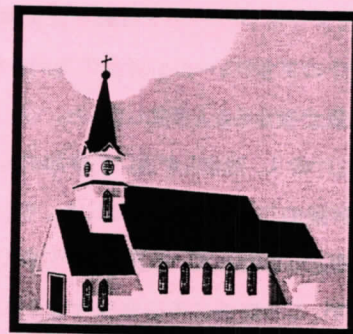
岐阜県 委員会の組織変更(全女性を委員会のメンバーとした)に伴い運営会議を定例とし、全体の顔合わせを年末に予定。情報交換はMLを利用

富山県 住まいづくり・ものづくり・まちづくりの活動を展開。継続事業：健康住宅及び民家の各研究会

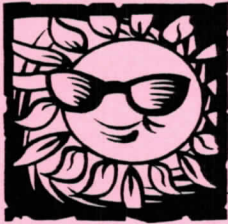
## ■ 建築ひとくちメモ

◆ハウスアダプティションご存知ですか？

House Adaptionとは障害のある人や高齢者の生活環境において、住環境をうまく改変することによって‘不都合’を取り除こうという改善手法である。住宅の物的な環境条件を個人の生活要求に適合させるという行為(Adaption)なのである。



在宅介護を考えるハウスアダプティション用語集抜粋 / 財団法人住宅総合研究財団



## ■森林文化アカデミーのこと

岐阜県立森林文化アカデミーとは今年4月に美濃市曾代に県が開校した学校で「森を知り、木と語る」をテーマに森と木のクリエイター科と森と木のエンジニア科があります。里山、人工林などの分野のほか木造建築がカリキュラムに盛り込まれており教授として三澤文子氏が赴任しております。また、この学校は北川原温氏が設計、稲山正弘氏が構造担当した建物で、8月号の新建築など多くの雑誌に紹介されています。

このアカデミーが主催する短期技術研修という2日連続（通いも可能）の研修会への参加呼びかけを受け、建築士会及び女性委員会のメーリングリストで紹介させていただいたのですが、さらにこの短期技術研修を補完する研究会の形でも継続的な勉強会を行なっています。

今までに研修会が2回—5/22.23（講師 趙 海光氏）6/26.27（講師 稲山 正弘氏）、研究会は1回（7/11）行なわれました。今後も研修会は9/22.23、11/27.28、1/28.29（いずれも予定）研究会は10月、12月、2月に行なわれる予定です。木造建築に関心のある方は是非、岐阜の木を使っていく取り組みに参加されますご案内します（学生も参加しますのでわかりやすい内容です）。

（7月5日にメーリングリストに載せた文章を転載。）

先日、6/26.27のアカデミーの研修会の案内をさせていただきましたが、建築士会から8人参加しました。1泊2日フルコース組から1日だけの人、泊まらず通いで参加の人色々でした。木造の新構造計画のことがよく分かりました。そして夜は木造建築の第一人者とかも現れ大いに盛り上がりました。前にもお知らせしましたが、この短期技術研修は今後3回行なわれる予定です。それ以外に三澤教授が中心となって自主的な勉強会

をその合間に月1回となるくらいのペースで進めたいということです。それで急ですが7月11日の夕方5時半から8時半まで森林文化アカデミーで開かれますのでご案内します。今回は台形集成材にシフトしていますが、内容としては長良杉、東濃檜と入っていく予定です。そして材の性質とか流通のこととか乾燥・コストと自分たちがまず勉強し、消費者にわかってもらうというプロセスになる予定です。



## ■(メーリングリスト)について

### ◆はじめに

最近パソコンを使ってお仕事されている方、たくさんみえると思います。皆さんはいかがですか？

パソコンと言えばインターネットと言う時代でもあります。私はネット歴3年。今はいろんな情報をメールでやり取りしています。メールと言っても、個人でのやり取りだけではありません。メーリングリスト(略してMLと言います。)と言う方法も使っています。

### ◆メーリングリストの楽しみ

今年春、建築士会でもMLを作っていたら、皆さんのお話を聞けるとあって、早速私も参加しました。

いろんな話が聞けるのが、MLの楽しみです。私はこう思うけれど、みんなはどうかな？なんて思うとき、メールを投稿してみてください。すると、私の場合はこうだった。私はこうしたよ。等、いろんな意見が聞けるのです。すると、自分だけでは思いつかなかった考え方を発見できたりするのです。分からないことを教えあえたり、愚痴を聞いてもらえたり。

先日は、女性委員会メーリングリストで、子供の誕生日にケーキ屋さんを紹介していただきました。とてもおいしくて、嬉しく思っています。

## ◆メーリングリストとは？

ここまでの話で、MLって楽しそうだけど、どういうこと？って思われているでしょう。MLは、会議室にいるみんなと話をしているようにメールでやり取りをする方法です。

私がMLにメールを出すと、ML参加者全員に配信されます。その返事を書くと、また全員に配信されるのです。ですから、MLの参加者全員に同じメールが配信されているということになります。そのすべてに返事を書く必要もなく、ROMと言って、メールを読んでみるだけの人もいたりします。もちろん、どんどん参加して、情報をやり取りするほうが楽しいと思います。

## ◆メールのやり方は？

では、そのメールのやり方が分からないという方もお見えになると思います。まずは、メールアドレスをもらいます。一般的には、パソコンを売っているお店にCDが置いてあり(O CN、DION等)、それらをパソコンで起動、画面に沿って進んでいくと、メールアドレスがもらえます。また、私のように夫もしているので、一緒にメールアドレスは困るという方には、無料でメールアドレスをもらうことも出来ます。

<http://www.freemail.ne.jp/>

<http://www.msn.co.jp/home.htm>

<http://freemail.goo.ne.jp/index.html>

<http://www.lycos.co.jp/mailcity/top.html>

[http://www.anet.ne.jp/anet\\_hp/index.html](http://www.anet.ne.jp/anet_hp/index.html)

これらにアクセスしてみましょう。画面に沿って入力するだけで、メールアドレスがもらえます。Web上でもメールが読めるものもあるので、出先でメールの確認も出来ます。そして、メールアドレスをもらったなら、Outlook Expressなどのメールが出来るソフトを起動して、アカウントの設定をすればメールが出来ます。画面に沿って入力すると出来ます。二つ目からは、アカウントを追加することになると思います。



ML参加希望者 住所、氏名、アドレス記

入の上、[yandm.masumoto@nifty.ne.jp](mailto:yandm.masumoto@nifty.ne.jp) まで担当: 榎本

## ◆料金は？

いろんなプランがあります。私のうちはよく繋げるので、接続料はつなぎ放題のプランで、電話料はテレほうだい(フレッツ(24時間つなぎ放題)はまだ繋げない地域なの)です。

メールチェックするだけなのであれば、月に3.4時間繋げられれば充分と思います。電話料も含むプランなどを利用するようにするとお得でしょう。

## ◆さあ！メールをしてみましょう

ここまで来ると、メールを送ったり、受け取ったり出来ます。お友達など、メールを送って見ましょう。送信者は自分です。自分のメールアドレスを入れます。宛先は、送る方のメールアドレスです。件名には簡単にメールの題名をつけて見ましょう。

さて本文です。本文は何でも良いのです。伝えたいことを思うままに書いて、送信ボタンを押します。相手の方が、メールをチェックすると、あなたのメールが届くはずですよ。

## ◆メールを整理する

来たメールを分けることも出来ます。ユーザー切り替えの設定をすれば、自分のみの表示になるでしょう。それが出来ないソフトでは、受信トレイに右クリックして、フォルダを作成しましょう。そして、メッセージルールで、自分のメールアドレスにくるメールを作った新しいフォルダに入れるように設定すると、他の方と別になるので使いやすいです。このフォルダを作るというやり方は、MLごとに分けたり、メールの送り主ごとに分けたり、と言う使い方も出来ます。

簡単に書きましたが、言葉が分からなかったり、これでいいの？と不安に思われることもあると思います。私もそうでした。そんな時は知っている人に聞く。これが一番かも知れませんね。

メールをするようになり、私の人生観は変わりました。毎日、メールチェックするのが、楽しみなのです。そのひとつが、女性委員会のMLです。岐阜の女性建築士の集まりで仕事のこと、岐阜のこと、女性と言うことで子育てのこと、いろいろと話が聞けるからです。皆さんも是非参加してみませんか？

(濱本泰恵)

## ■全国女性建築士連絡協議会の報告

テーマ 「地域と共生する居住環境づくり」～  
地球環境から考える～

日時：7月 13(金)昼～14(土)昼まで

場所：熊本市



### ■委員長会議の報告

#### ◆平成 14 年度全建女について

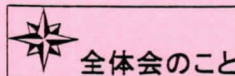
開催場所：東京近郊で 7/12.13 を第一候補で会場を選ぶ(建築会館はすでに一杯)

テーマ：地域に根ざした身近なところから取り組む環境共生(予定)・・・地球規模ではなく、地域で盛り上げていくと言う考え方から

今までの取り組み(H2～高齢化社会、H7～健康住宅、H12～環境共生)

- ・ 第 44 回建築士全国大会(宮城大会)はフォーラムⅢを女性が担当
- ・ 第 45 回以降はフォーラムの運営が変わり、青年・女性・まちづくり・情報がテーマごとに協力しあう形となる。第 45 回は三重大会。テーマ案は環境・人間・建築の三重奏—建築士たちの新たな挑戦—
- ・ アピールの採択
- ・ 分科会の資料について各県一式ずつほしいと言う要望が出た(分科会がたくさんあり、参加した分科会の資料しか手に入らないため、以前から不満があったが費用の関係でとりあえず保留となった)

※朝 8 時から 9 時という限られた時間の中で、46 都道府県の委員長が集まる大人数の会議で、どちらかと言うと報告に近い形でした。配布資料の中に兵庫県・宮城県・奈良県の各女性委員会が作成された冊子があり、人数の違い、活動の違いをまたまた実感。岐阜県も、少しずつ活動の輪を広げられたらと思いました。



北海道から沖縄までの約 250 名の女性建築士が一同に会し、毎年のことながら会場は熱気にあふれた。

挨拶等のあと、全国の単位士会の協力で行ったテーマに基づいたアンケート結果の報告(当士会も 3 名協力)—— 冊子有り(見たい人は連絡下さい)

次いでパネリストの環境への考え方、取り組みなどの講演を聞いた後、小谷部連合会女性委員長も加わりパネルディスカッションが行われた。

コーディネーターは宮本伸子連合会女性副委員長。

#### パネリスト

**藤森 照信氏**(東京大学生産技術研究所教授・専門—建築史、作品：タンポポハウス、熊本県立農業大学校学生寮等)

**宿谷 昌則氏**(武蔵工業大学大学院建築学専攻・環境情報学部教授、建築環境学が専門)

**吉本 哲郎氏**(水俣市農林水産課長、地元学協会事務局長)

環境共生という言葉が最近よく使われるが、人は自然を痛めつけておいて共生というのは勝手ではないか。人と人、人と自然の観点から相互依存、拮抗ではないか。共生と言うよりはむしろ寄生ではないかという指摘も出た。地域性を無視して環境はありえないが世界中、どこにでも似た様な地元の材料を使った建築文化があり、人間は、地球環境の影響を生まれながらに受けている。住まいがお金を出して購入する物になってきたところに、地域性が欠落する原因があるのではなどと色々な議論が次々と起こった。また、「調べた者しか詳しくならないから、自分たちで調べよう」と、自分の生活や地域のことを、住民自らが調べ自分の言葉で語るという地元学からは、「地域と共生する」と言いつつ地域のことを知らない、話せない事の指摘があった。藤森氏の建物は、設計に携わった人も工事に参加しており、その中から見えてくるものがあるとのこと。結論と言うものは無くそれぞれ違った視点からの環境考だった。



## 入手資料一覧

- ▶第42回建築士会全国大会長野大会 フォーラムⅢ  
「森からのメッセンジャー、木造校舎」(冊子)  
地域と共生する居住環境づくり調査報告書(ホッチキス止め)
- ▶地球環境・建築憲章(パンフ)
- ▶地域貢献 NEWS 創刊号(2001.7)(チラシ)
- ▶エコハウジングセミナー記録(兵庫県建築士会女性部会、神戸市すまいの安心支援センター)
- ▶宮城県女性部会会報(Vol.5)10周年記念特集号  
奈良県女性委員会(第27号2001年冬号)10周年記念特集号(フープ)(以上冊子)
- ▶パネルディスカッション講師資料(コピー・ホッチキス止め)
- ▶宿谷昌則氏—エクセルギーとは何だろうか、新世紀住宅論1地球環境と住宅、他
- ▶吉本哲朗氏—講演要旨、地元学新聞切り抜き
- ▶藤森 照信氏—熊本県立農業大学校学生寮コピー

## 分科会資料

- ▶マイホーム安心の設計図(田辺新一氏氏)(日本経済新聞切り抜きコピー)
- ▶高齢者住宅研究班の活動について(群馬県建築士会 前橋支部女性部 高齢者受託研究班)
- ▶ケアらいふ研究会の活動(茨城県建築士会 女性部会)
- ▶みんなで秘密の基地づくり 平成9年度事業  
みんなで秘密の基地づくりパート2 平成12年度事業  
(北海道建築士会 女性部会)
- ▶建築と子供たちチャレンジ講座(福島県建築士会 女性部会)

※問合せ先別紙記載



## 各分科会のこと

- A 分科会—『健康住宅関連』
- B 分科会—『環境共生関連』
- C 分科会—『士会活動関連』
- D 分科会—『高齢社会関連』
- G 分科会—『子供と建築』
- H 分科会—『集まって住む』

以上8つの分科会が設けられた。其々の分科会ではあらかじめ依頼された2~3士会のコメントーターが発表し、それをもとに各自意見を述べたり質問したりと言う形式で2時間の意見交換・討論が行われた。いずれの分科会も20~30人程度の参加で行われ、最後に話し合われた要旨を各分科会司会者が全体会で手短かに発表してくれた。

## 岐阜県の発表

岐阜県はA分科会でホルムアルデヒド測定の発表を依頼されていたため、H10年から12年にかけて測定、まとめたものを東海・北陸ブロック会議で発表(H12.3)用に作成したOHPシートを用い、15分ほどにアレンジして発表した。(全員なるべく違う分科会に参加しようという方針で発表は河内一人で受持ち、それぞれ違う分科会に参加した。)

## A 分科会

◆『健康住宅関連』

岐阜県の発表のあと、新潟県の方から健康・環境にやさしくしかもローコストの住宅建設を行っている施工者の立場での発表があった。ドイツに何度も視察に行かれ研究された住宅であり、土から水にまでこだわったの坪単価35万円に驚きの声が上がった。意見交換会では、設計者・施工者・施主・メーカーが協力しあっていくことが必要であり、施主も含めもっと本物(例えば自然の木)を理解することやまた、どういう品質の住まいにしたいかの選択肢の提供を施主に対してしていくことが大切であることなどが話し合われた。

(河内 美代子)

## D分科会

## ◆『高齢社会関連』

主旨 高齢者に対し建築士が手伝えることは何か。(バリアフリー対策にとどまらず高齢者が安らげる空間の提供) 建築士が担う役割について考えることはこれから確実にやってくる高齢社会にとって大切なことと考える。

## 茨城士会「ケアらいふ研究会の活動」

高齢者障害者の生活スペースを考えると、住まい、施設の充実と共に暮らす人々の「心のケア」にも焦点をあて女性の立場から提言をしていきたい。という目的のもと見学会、勉強会、住宅改造プランの提案などの活動報告がされた。

## 群馬士会「高齢者住宅研究班の活動」

リフォームでアドバイスをするリフォームヘルパーの活動。「広げよう! やさしい手」という情報誌を年4回発行し建築士だけではなく、福祉に携わる異業種の方、いろいろな悩みを持っている高齢者の方、障害を持っている方々とのコミュニケーションがとれればと考えている。と発表された。

## 意見交換会

現在バリアフリーは当たりまえである。しかし、高齢者＝バリアフリーという事には疑問。全てをバリアフリーにする必要はないのでは。個々に合わせたもので必要なときに改修できるような提案。老後の質を高めるにはどうすれば良いか。高齢者の気持ち意見を本当に聞いているか。などの意見が出された。

そこで、建築士の職能を活かすには、感性を磨き人の心が少しでも理解できるようになれば何が必要なのかを見極める柔軟な広い視点が見えてくるのではないかとまとめられた。

(松村 久美子)

## G分科会

## ◆『子供と建築』

主旨 近年の少子化高齢社会に伴い変化してきた生活環境の中、将来を担う子供達にまちづくりへの関心、参加意識を持ってもらう。

子供を対象とした、『住教育』の視点から建築士として支援していできることを考えたい。

北海道士会「みんなで秘密の基地づくり」パート2  
目的:遊びを通し自然とふれあい、自らの手でものづくりを行う。

内容:子供たちの自由な発想で、自分達の基地空間を創り出す。【子供達の自ら作成した完成予想図をもとに、ダンボール、木材等の資材を使用し自然の中で(9グループ)創作】

1.子供集め—教育委員会・児童センターの協力 2. 資材—企業の協力 3.道具—新聞記事により使用済み‘のみ’等の提供 4.場所—林務課の協力 5.金額—総計 165,230 円出費

(作製した建物はその場で自らの手で壊し、集めるまで行ったそうです。)

## 福島士会「建築と子供たちチャレンジ講座」

※ まちのやさしさ探し:小学3年生を対象とし、グループ事に各地域のコースを歩き、まちの‘やさしさ’とその反対に問題のある点を見つけ出し、話し合い、カードにまとめる。

※ たてものから学ぶ歴史のまち、福島再発見。

:小学4～6年生を対象に上記の2回目として、今回は建物をターゲットにウォッチングする。

## 意見交換会

公民館の建設に伴い、建設中に近隣の子供や住民に塗装、左官等の講習会兼実施学習を行った。等、他県での多くの活動の内容発表があり、問題点として、児童文化センター等は本当に子供達は使用してる?等の公共福祉・文化施設の意義まで話は進んだ。

(立川 泰子)





## 見学レポート

## ◆『熊本県水俣市』

## ・水俣市を訪ねた！

パネルディスカッション「地域と共生する居住環境づくり」のパネリストで水俣市役所の吉本氏の話に、他を寄せ付けられない力強いものを感じ、水俣市に行きたくなりました。

吉本氏の車に乗せてもらうことになり、水俣までは2時間の道のりでした。

## ・吉本さんの話(水俣市役所職員)

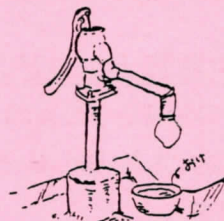
「水俣市は即、水俣病の名前が浮かぶほど、重く暗く悲しい町だ。水銀に汚染された海で魚を主食にしていた人たちは、何の罪もないのに苦しみ、患い、まわりから奇病扱いされ、偏見といがみ合いの中で40有余年も暮らしてきた。市の名前に病という字がついてしまったこの悔しさは言葉には言い尽くせない。あなた達の住んでいる名古屋や岐阜が名古屋病・岐阜病といわれたらどうだ。たまらんだらう。」低く抑えた吉本さんの声には、長年苦しみ続けた水俣の人たちの怨念のようなものが感じられました。

高速道路を降り車は山道を走りつづけ海を見下ろす場所に出ました。「あれがチッソだ。水俣は山と海しかない。平野部はほとんどない。その平野部にチッソは工場をつくった。そして海へ有機水銀を流した。」山肌に身を寄せるように民家が並ぶ中で一画だけ三角に開けた場所にチッソの工場が息をひそめるように建ち、もうその前は海で、鉛色に穏やかに広がっていた。

## ・水俣病とチッソ工場

水俣病は工場排水中のメチル水銀に汚染された、魚や貝をたくさん食べることによって起こったメチル水銀中毒で、主に脳などの神経系を侵し、手足のしびれ、ふるえ、脱力、耳鳴り、動きがぎこちなくなる等様々な

症状を引き起こします。



チッソは明治の終わりごろ水俣に工場をつくり、戦後の高度経済成長を支える企業となり、水俣市もチッソとともに発展し、熊本県でも有数の工業都市へとなりました。

しかし、大正時代からチッソ工場排水による海の汚染は、たびたび問題になっていたにもかかわらず、昭和7年から昭和41年までほとんど無処理のまま海に流し、工場排水が水俣病の原因とわかってからも(昭和35年頃)操業中止をせず、水俣病裁判の判決の中で企業倫理の欠落を厳しく批判されました。

## ・水俣市民の環境問題に対する取り組み

水俣湾に堆積した水銀ヘドロは、14年の歳月と485億円という巨額の費用をかけしゅんせつ・埋め立て工事がおこなわれ、平成9年7月に安全宣言が出され、仕切り網が撤去されたのは、まだ記憶に新しいところです。

水俣病の患者たちは病気の苦しみのほかに、近所付き合いを断られ、チッソに頼る市民から裁判や補償でチッソをおびやかす存在としてうとまれてきました。近年になりそうした過ちを乗り越え「対立からは何も生まれない」という事に気づいた行政・市民・被害者たちが、水俣再生に向かって行動をはじめました。水俣市役所の吉本さんたちは、水俣市の自然や人、川、海を足で歩いて調べ、水俣市の絵地図を作成しました。その上で、ゴミや産業廃棄物、リサイクルなど地球の問題から目をそらさず、向き合っていくことの大切さを実践されています。

(福田 弥生)

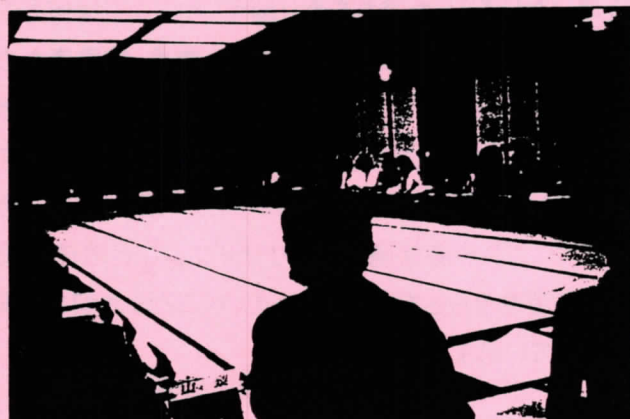
### ■女性建築士のつどい(仮称)のお知らせ

会員の皆様とぜひお顔合わせをしたい！ということで、前述にもありました様に暮れに会合を行いたいと思います。

つきましては、なんといってもお住まいも年齢も生活環境も違う皆様といたいでいすれば多数の御出席を戴けるのか？と考え、ない知恵を絞ったところアンケートにして皆様に訊いてしまおう！…という単純発想のもと別紙アンケートを作成致しました。是非皆様のお力をお借りして素敵な会合に致しましょう！



森林文化アカデミー管理棟の前にて…。



全建女連絡協議会にて、委員長会議風景



全建女連絡協議会開会式にて、小谷部連合会女性委員長挨拶

### ■編集後記

このお便りが皆さんへの情報提供の一助となり、そしてまた、次回には皆さんから多くの投稿がいただけるという双方向の場になっていけばと考えます。今回は少人数で作成しましたが、是非、多くの方のご参加、ご協力をお待ちしています。

なお、上記のような一言・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786

FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

[kensi578@juno.ocn.ne.jp](mailto:kensi578@juno.ocn.ne.jp)

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します。

※ P.6の資料の問合せも上記までお願いします



